



「弱音を吐ける世の中に」

福岡いのちの電話評議員

本田 洋子

(福岡市精神保健福祉センター所長、医師)



新型コロナウイルスが日本中で猛威を振るい、東京オリンピック・パラリンピックの開催が危ぶまれています(3月1日現在)。しかし、今回は東日本大震災の「復興オリンピック・パラリンピック」と位置づけられているため、開催への期待はなおさら大きいのではないのでしょうか。そこで思い出されるのは、前回の東京オリンピックも、1964年という戦後まだ20年に満たない時期にアジアで初めて開催され、戦後復興の成果を世界に誇示したいという国民の期待がとても大きかったということです。

中でも国民の大きな期待を担ったのは、陸上競技において日本人選手として唯一メダルを獲得した円谷幸吉選手だったと伝えられています。持病の腰痛に悩まされつつも1位のアベベの後ろを追い上げて行き、決して後ろを振り返らず、国立競技場のゴール前でイギリスの選手に抜かれながらも最後まで死力を尽くすストイックな姿に、大観衆は熱狂と興奮の渦に包まれたそうです。しかし、その円谷選手は次のメキシコ五輪の約半年前1968年1月に自殺してしまうのです。あまりにも有名な家族あての遺書は、「父上様母上様 三日とろろ美味しうございました。干し柿もちも美味しうございました。敏雄兄姉上様 おすし美味しうござ

いました。勝美兄姉上様 ブドウ酒リング美味しうございました。」とお世話になった親族の名前と、彼らが励まそうと持ち寄ってくれた故郷福島のお食べ物が列挙され、さらに17人もの甥姪の名前の後に「立派な人になって下さい。」とメッセージがあり、最後に「父上様母上様 幸吉は、もうすっかり疲れ切っちゃって走れません。何卒お許しください。」と締めくくられています。

この哀切極まりない遺書を読んで思うのは、これほど温かい家族という保護因子があっても、自殺を防ぐことができなかった背景には、人間関係、結婚問題、身体疾患などの要因もいろいろとあったようですが、やはりメダルを取らねばという相当大きな重圧があったのだろうということです。

「多様性」を良しとする現代社会においても、周囲の大きな期待に応えるために無理を重ね、自らを追い詰めた揚げ句に孤立に陥ることがあるものです。自己責任論が飛び交う格差社会に生きる私たちの、本音や弱音などの「心の声」をしっかりと受け止めてくれる「福岡いのちの電話」の存在意義は、今後もさらに大きくなると思っています。

2019年度

福岡いのちの電話 自殺予防公開講座を開催しました

本年度の自殺防止公開講座が2月23日、福岡市・天神の都久志会館で開かれました。奈良大学の教授、上野誠先生をお招きして「こころの万葉学 万葉びとの愛と死生観を学ぶ」の演題で講演いただきました。福岡いのちの電話の相談員や一般聴講者約130人が参加し、古典を学ぶことの意義について学びました。講演要旨は以下の通りです。



講演中の上野誠氏

人生をいかに生きるか 考えるヒントが古典に

私は日本の古典、中でも万葉集を研究し、社会にどう伝えていくのか、そういったことを生業としています。

福岡県の朝倉（甘木）で生まれて、福岡市の呉服町で洋品店の次男坊として育ちました。大学の文学部に進学する時、「文学部に行って、飯が食えるのか」と随分言われたものです。

別に万葉集を読まなくても、古事記、日本書紀を読まなくても生きていけるわけですが、例えば、体の痛みをどうするかは医学の問題です。では、失恋した、心が痛い、これをどうしたものかとなれば、これは文学の問題となるのです。人生をどのように生きるのかを考える時、古典をどう読むのかの問題に変わっていくのです。

2008年のこと、オペラ「遣唐使物語」の脚本の依頼が舞い込んできました。博多の母に意見を求めると、母は「そげなことね。同じアホなら踊らにゃ損、損」と言うのです。要するに、せっかくのチャンスだから逃さず楽しめ、ということです。

なるほどと、そういう見方で万葉集を眺めてみると、巻三に「生ける者（ひと） 遂にも死ぬる ものにあれば この世にある間は 楽しくをあらな」という大伴旅人の歌があるのです。人は必ず死ぬのだから、せめてこの世にいる間は楽しく生きてゆこう、それが生きていく原動力だ、という思想です。

一方、死に対する認識を表した歌もあります。謀反の嫌疑をかけられて死を選ばざるをえなかった大津皇子を悼み、姉の大伯皇女が「うつそみの 人なる我（あれ）や 明日よりは 二上山を 弟（いろせ）と我（あ）が見む」、現実を受け止め二上山を弟と思って眺め暮らそう、と歌うのです。

亡くなった人にできることは、その人の事を想い起

こすことしかないのだ、しかし、思うことが大切で、その人について想い、語り合う中で死者はよみがえるのだ、という思想です。

そして、それしかできないのなら、だからこそ、生きている間は楽しく生きていこうではないか、という哲学にもつながるのです。

もう一つ、神話も、科学ではないけれど、私たちが生きていく道筋を示してくれる指標となる知恵なのです。

古事記のイザナキノミコトとイザナミノミコトの話は、二人が結婚して子を産む形で国造りをし、やがてイザナミが黄泉国に旅立ったことで愛憎劇が繰り広げられます。愛する者も対立して憎しみ合うことがあるという人間関係の難しさ。これは、いのちの電話の相談員さんたちが最もよく知っておられることではないかとも思います。

そう、古典を学ぶということは、即座に何かの役に立つことはなくとも、いつ出会うかもしれない苦難や、喜びの場面で、自分の思いをどう表し、どう生きていくのか、それを考える基礎体力を身につけるヒントになると、私は考えるのです。



講演は手話通訳も行われました

当初は、上野誠先生の講演の後、上野先生と、「福岡いのちの電話」監事で太宰府界隈の万葉歌碑に詳しい吉野正弁護士が、長谷川彰理事の司会で、万葉びとの死生観から現代を生きる私たちが何を学び取れるのか、地元・福岡に引きつけながら鼎談を行う予定でした。ただ、公開講座実施予定の3日前、福岡市で新型コロナウイルス感染者が確認され、万一の感染防止に努めるため時間を短縮することとなり、鼎談は中止といたしました。



参加しての感想



去る2月23日(日)の14時から、都久志会館での自殺予防公開講座に参加いたしました。講師は奈良大学文学部教授の上野誠先生で、講演テーマは「こころの万葉学」でした。これまでの公開講座は心理学や宗教の立場から、また、さまざまな経験をされた方からの講演が多く、日頃電話を取る際に直結する内容でした。今回の講演テーマを聞いて、どのようなお話になるのだろうと興味を持って拝聴いたしました。

先生は福岡市出身で、ご自身の幼少期からの思い出を皮切りに、とても気さくに語りかけるように話し始められました。万葉集・古事記などを引用され、生きるとは、死ぬとは、また、性についても話されました。情報と物に溢れ、何かとスピードが求められる現代の私たちの心に、古代文学を通して忘れがちになる大切なことを投げかけてくださいました。気持ちを新たに、これからも電話を取っていきたいと思います。

T. S



会場ホール入り口で、事業ボランティア会の手づくり品が販売されました。11,460円の売り上げがありました。

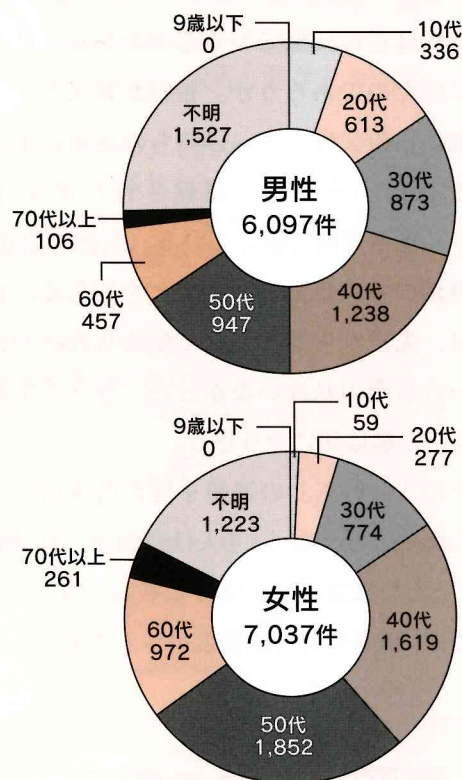
2019年における福岡いのちの電話の受信状況

受信総数は13,134件(2018年は12,310件)、電話を受けるボランティアの実働数は182名(2018年は175名)でした。

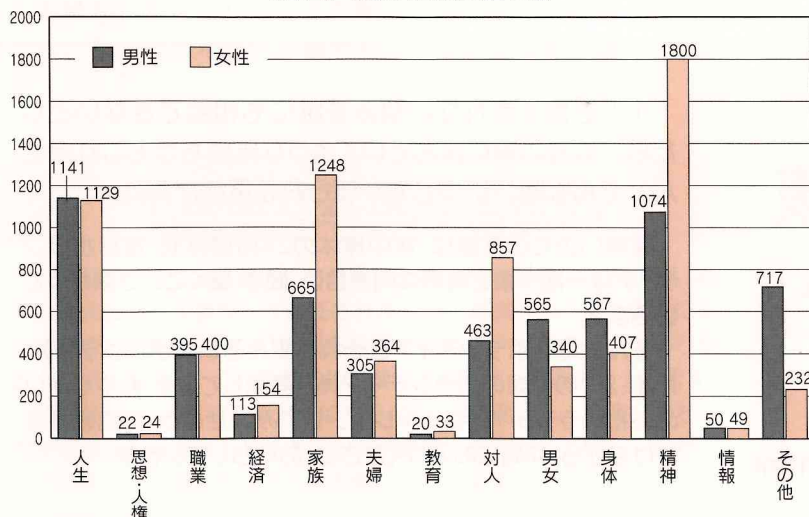
受信総数はこの10年以上にわたり減少が続いていましたが、2019年は若干増加しました。実働数においては低迷傾向にあるため、ボランティア応募数のアップに期待したいものです。

受信総数の内、男性は5,964件、女性は6,346件でした。それぞれの年代別構成は「図1」の通りです。男性は40代が多く、30代、50代、20代が拮抗しています。女性では、50代、40代が多いのが特徴です。次に受信の相談内容別は「図2」とおりで「精神」が多く、続いて「人生」、「家族」となっています。2014年頃までは「人生」が多かったのですが、近年「精神」が多くなっています。「精神」の内訳については「図3」の通りです。

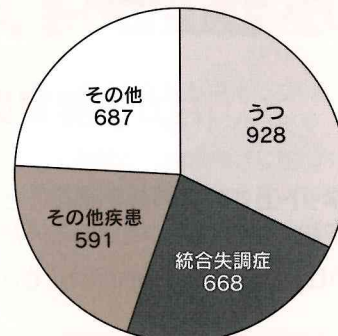
【図1】年代別受信件数



【図2】相談内容別受信件数



【図3】内容分類(精神の内訳)



リレー 随 想

第19回

福岡いのちの電話養成講座講師
山崎 一馬
(臨床心理士)



遺影 (ライフフォト) — 新たなときめきを求めて —

近頃親族や知人の葬儀に参列することが多くなった。会場では故人の来し方を思い浮かべながら遺影を見ることが多い。故人のさまざまなことを思い浮かべられるような遺影もあればそうでないものもある。最近、好奇心から今の自分を残そうと思い専門店に遺影を撮った。遺影というと少し顔をしかめる方もおられるが、ライフフォトとも言える。

遺影は亡母に似ていると言われる。その母は誰に似ていたのだろうか。祖母か祖父か、そして祖母は誰に、祖父は……。いのちの連鎖は羊水の中で十月十日という非常に短縮された旅を介して、約三十八億年連鎖と続いている(生命誌絵巻)。最近その連鎖の中に自分もいることを感じる。自分のいのちは、先祖から連鎖として伝えられ、一人でも欠けていたら今の私はいなかった。危うく中絶されそうになった私は切にそう思う。

その「いのち」の連鎖を何かの事情で無理に自ら断ち切るのではなく、「人は寿命がくれば必ず死ぬので、そんなに急いで死ななくてよいのでは・・・」と言ったのは、解剖学者の養老孟司さんである。やはり「い

のち」はコウノトリが運んでくれる授かりものなので大切にしたい。

最近古稀を迎えた。生まれて社会に出るまでを第一ステージとすると、就職して家庭を持った時代、組織や世の中のしがらみから少し自由になった六十代、今は第四ステージの始まりになるだろうか。終活には早すぎるし、「三屋清左衛門残日録」ではないが、「日残りて暮るるに未だ遠し・・・」の心持ちであろうか。

未来の自分(遺影)は、現在書斎にいて時々微笑みかけて元気をくれている。最近ひよんなことから始めることになった新たな小さな事業(夫婦円満カウンセリング“つなぐ”)を応援するかのよう。

体力は落ちていくが、知的能力は使い続けることによってゆるやかに伸びていくという脳科学者の話を信じて、「可処分時間」、「可処分精神」を活かしていきたい。

これからどんな出会い、ときめきがあるのか楽しみにしながら。

微笑みのわれの遺影や冬うらら 水馬

福岡いのちの電話 ボランティア募集

〈5月から募集開始〉

ネット上で募集内容を見ることができます。
下記のURLにアクセスしてください。

<http://www.f-inochi.org/bosyu.html>

1人で抱えきれない悩みを誰にも相談できないとしたら、孤独の淵に沈んでいくような気持ちかもしれません。そんな時、いつでもかけられる電話があれば・・・。

福岡いのちの電話は、年中無休の24時間体制。電話ボランティアは一期一会で電話に向き合い、聞き、聴くことで繋がっていきます。

そんな電話ボランティアとそれを支える事業ボランティア。毎年、2つの種類のボランティア員を募集しています。やりがいのあるボランティアにチャレンジしてみませんか。養成研修を受けながら、仲間にお入りください。お待ちしております。



ブラッシュアップ研修

2019年12月21日に、経験豊富なベテランボランティア員を対象に「ブラッシュアップ研修」を実施しました。講師は福岡いのちの電話教育委員長の松尾公孝氏とスーパービジョン・スーパーバイザーの才藤千津子氏でした。

松尾公孝講師による全体講義の後、2グループに分かれそれぞれの講師によるワークが行われました。以下に、参加した方の感想を掲載します。

ブラッシュアップ研修を受けました

リフレッシュ研修が好評と聞いていたので、対象になった方々はいいなあと感じていたら、「ブラッシュアップ研修」なるものの対象となりました。そう、ここまで続けたのだから、やっぱり磨きをかけなくちゃ！と参加しました。研修ではベテランの方々の顔ぶれが揃い、雰囲気も和やか。

まず松尾先生から、「傾聴と共感的理解」という講義を受けて、「いのちの電話」というものを再確認、少し霞んできていた原点を改めて心に刻みました。

先生の話の中で私が印象に残ったのは、「非言語的要素のほうが人の判断に影響を与える」ということでした。声のトーン、息遣い、話す速度、そういうものの与える印象が大きいので、センスを磨く必要があるとのこと。そうなってくると、全人格的な自分の在り方が問われそうですね。

もうひとつ先生の言葉「功罪あい半ばす」に頷きました。失敗も何かの意味があると。失敗してもいいと気楽に構える訳じゃないけれど、型にはまらず、真剣に通話者を理解したいという思いを大事にして、試行錯誤したいなと思いました。

その後は、グループトークでした。私のグループは、振り返りよりもこれからの課題みたいなものが話のメインになりました。ある方が、「これから入ってくる新しい方々が、辞めたいと思わないような組織にしてくちゃ。」と言われたのが、すごいと思いました。私も「先輩方」と言われるような期になってきたんだと思うと、ちょっと身が引き締まるような思いで冬の道を帰りました。

Y. Ku

研修に参加して

ブラッシュアップとは、「知識やスキルを磨き直す」と辞書に書いてある。ハハアーン、さてはベテランとは名ばかりの古い相談員のサビ落とし？ それとも「喝!!」を入れるための研修ですか？ その資格は十分なので参加してみました。

案の定、いのちの電話は「話を聞く、聴く、傾聴」なんて、分かりきった講義です。でも待てよ、忘れていたかも……。そうだった「そういう考え方もある」と受け止め、想像力を働かせ、ドローンで上から見るようにその状況を理解できるといいなど、考えさせられました。忘れかけていた初心が戻ってきたようです。

少しリフレッシュされて、才藤先生のグループワークに入りました。先生の姿・形、はっきりとした物言いいもさることながら、福岡いのちの電話の創設から関わっておられたという、それだけでも相談員の気持ちを分かってくれさると、安心感満載です。

研修では、電話相談員をしていて、それが自分たちの生活の中で生かされているということのを再認識しました。例えば、日常でも余計なことをいわずに話を待つ、だから話が進むなど。しかしその反面、聴くことに主眼を置いてばかりで、伝える練習はしていないから、自分の気持ちを素直に伝えられなくなった、との意見も出ていました。

また、一番大切なもの、それは健康であるということも再認識し、今ある相談員としての能力や技術をさらに高め、良いものにするために意義のある研修でした。

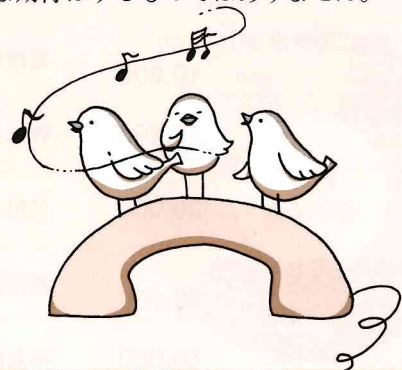
さて、これからが研修を受けた私たちの腕の見せ所？ ブラッシュアップされた相談員に乞うご期待!!

あくまでも個人の感想です。

効き目には個人差があります。

過剰な期待はするものではありません。

Y. Ki



新後援会会長のご紹介

2019年11月に、「福岡いのちの電話後援会」新会長に田中優次氏（西部ガス株式会社相談役）が就任されました。前会長の小川弘毅氏には2012年から長きにわたり後援会会長を務めていただき、誠にありがとうございました。これまでのご支援に改めて深く感謝申し上げます。

「福岡いのちの電話後援会」は1994年7月に発足し、福岡いのちの電話事業を資金面はじめイベントの開催等、側面から支援していただいています。今後ともよろしく願いいたします。

周年記念誌が国会図書館に

福岡いのちの電話では、創設10周年、20周年、30周年にそれぞれ記念誌を発行しています。このほど、国立国会図書館から納本制度に基づく依頼があり、各周年記念誌を納本しました。今回納本依頼が個別にあったのは、全国の「いのちの電話」の活動が評価されたことによるものと考えています。

ご援助 ありがとうございます

寄附感謝報告 2019年12月1日～2020年2月29日 (敬称略・順不同)

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。
また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



千人会			
(弁)金子法律事務所	10,000	高岸智也(高岸小児科医院)	10,000
濱 孝明	10,000	大木整形・リハビリ医院	10,000
山手誠之助(福岡舞鶴高等学校)	10,000	エミール保育園	10,000
入江信行((医)入江内科医院)	10,000	村上晃二(村上歯科医院)	10,000
田中和子	10,000	高原清彦(桜坂中央外科医院)	10,000
濱生正直	10,000	島田文雄	10,000
濱生滋子	10,000	杉田俊介(杉田脳神経外科クリニック)	10,000
濱生牧恵	10,000	黒田 明	10,000
(学)聖公学園草ヶ江幼稚園 園児一同	20,000	植田治夫	10,000
福岡聖パウロ教会	10,000	梅根真知子	10,000
二ノ坂保喜((医)にのさかクリニック)	10,000	権藤説子	10,000
福島あい子	10,000	皆良田研介(皆良田眼科医院)	10,000
野島一彦	20,000	榎丸食	10,000
五十嵐実(榎福岡住宅センター)	10,000	花田公德	10,000
久保千春	10,000	武部道孝	10,000
匿名	10,000	市丸信敏(弁護士)	10,000
吉崎謙作	10,000	松崎 隆	10,000
佐野百合子	10,000	名前記載なし	10,000
佐藤 勉	10,000	西林寺(安武義修)	10,000
村山正治	10,000	山田尚吾(天神心療クリニック)	10,000
		椋島敏雄((弁)福岡南法律事務所)	10,000
		川野康之(川野税理士事務所)	10,000
		長門博之	10,000
		宮崎宏之	10,000
		村瀬廣記	10,000
		太田 良	10,000
		香椎療養所	10,000
		(医)つくし会病院	10,000
		(宗)泉林寺	10,000
		川谷大治(川谷医院)	10,000
		笠原歯科医院	10,000
		(医)社団 江頭会さくら病院	10,000
		野島一彦	10,000
		金子英次	10,000
		賛助会	
		教法寺	5,000
		一般寄附	
		いのち奏でるコンサート	66,000
		いのち奏でるコンサート 募金箱	11,000
		開局35周年記念コンサート 募金箱	3,000



木内多美子	50,000	野島一彦	20,000
福岡聖パウロ教会 麦の会	5,000	福岡有田バプテスト教会	5,000
国際ソロプチミスト太宰府	50,000	福岡女学院高等学校	20,000
福岡南キリスト教会(有吉光寛)	10,000	小郡カトリック教会	29,557
福岡市民クリスマス実行委員会	10,000	福岡北ライオンズクラブ	300,000
久保千春	17,958	吉田恵子	10,000
福岡カルメル会修道院	3,000	福岡鶴城ライオンズクラブ	150,000
藤田宗春	30,000	長住バプテスト教会	11,000
日本キリスト教会 福岡城南教会	5,000	村上昌子	1,150
福岡聖パウロ教会	5,000	カトリック南粕屋教会	5,000
匿名	2,000	日本基督教団 福岡城東橋教会	10,000
(学) 桜原こひつじ幼稚園	9,945	日本基督教団 福岡中部教会	10,000
イソベヤスコ	5,000	福岡文化ライオンズクラブ	100,000
西南学院バプテスト教会	20,000	カトリック笹丘教会	10,000
周船寺第二幼稚園	5,000	自殺予防公開講座 募金箱	5,700
在日大韓基督教会 福岡中央教会	10,000	平尾バプテスト教会	15,000
(学) 福岡女学院	10,000	福岡女学院教会	5,000
村上 剛	10,000	金春堂書店	3,000
福盛英明	10,000		

助成金

(社福) 読売光と愛の事業団 西部支部	50,000
(社福) 西日本新聞民生事業団	200,000

コカ・コーラ支援自販機

(株)紙谷 朝日新聞鳥栖販売店	12,160
(財) 恵愛団(九州大学病院内)	94,995
西部ガス(株)(パピヨン24内)	119,296
(有)ダイキ通信工業(自社内)	22,599
南蔵院(JR城戸南蔵院駅)	53,951
(株)西日本新聞社(本社)	48,710
(株)西日本新聞社(製作センター)	20,247
(株)福岡住宅センター (鳥飼1丁目パーキング)	5,691
福岡県弁護士会(福岡県弁護士会館内)	7,247

物品

福岡いのちの電話後援会
啓発用カード(名刺サイズ)

ご寄附は下記の振込先までお願いします

銀行口座：口座名義＝社会福祉法人 福岡いのちの電話
福岡銀行赤坂門支店 (普) 1147617
西日本シティ銀行天神支店 (普) 2131458

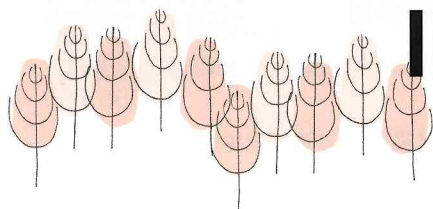
郵便口座：福岡いのちの電話千人会(千人会) 01710-1-36652
福岡いのちの電話(賛助会員・一般寄附) 01720-9-1037

千人会 1口1万円/年(何口でも)
賛助会 1口2千円/年(")
法人会 1口3万円/年(")

ご面倒をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

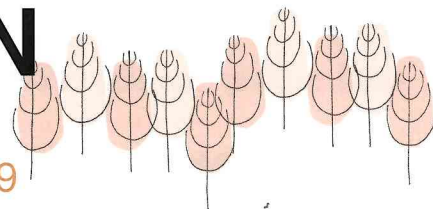
税制の優遇措置があります

社会福祉法人の認可を受けておりますので、寄附をされた場合、法人の場合は損金扱いに、個人の場合は年間所得の25%まで寄附控除が受けられるといった、税制上の優遇措置の対象となります。また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



INFORMATION

インフォメーション



日誌 2019.12.1~2020.2.29

12月

- 4 第45期生養成講座
(講師：久保千春氏)
- 8 インターネット相談運営委員会
・東京
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
事業ボランティア手づくり会
事業ボランティア例会
- 11 社会資源班会
研修運営班会
- 12 相談活動運営委員会
- 14 自主研修「ケースと私」
- 15 インターネット相談運営委員会
・東京
- 16 事務局会議
- 17 広報活動班会
- 18 第45期生養成講座
(講師：楯林英晴氏)
第9回教育委員会
受信資料検討班会
- 21 ブラッシュアップ研修
(講師：才藤千津子氏、松尾公孝氏)
- 24 事業ボランティア手づくり会
- 25 受信資料検討班会
- 26 第9回理事会

1月

- 1 会報140号発行
- 9 相談活動運営委員会
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 11 自主研修「ケースと私」
- 14 事業ボランティア手づくり会
- 15 社会資源班会
- 16 第45期生養成講座
(講師：松崎佳子氏)
第10回理事会
- 18~19 インターネット相談員養成研修
・福岡
- 22 受信資料検討班会
第10回教育委員会
- 23 福岡鶴城ライオンズクラブ例会
出席
福岡北ライオンズクラブ例会出席
第45期生養成講座
(講師：吉野正氏)
- 28 事業ボランティア手づくり会
- 31 会報企画会議
福岡文化ライオンズクラブ例会
出席

2月

- 1 電話ボランティア養成サポーター自主研修
- 5 第45期生養成講座
(講師：岡 秀樹氏)
- 7 全国研修担当者会議(京都)
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 12 社会資源班会
- 15 研修運営班会
電話ボランティア養成サポーター会
インターネット相談活動班会
- 18 事業ボランティア手づくり会
- 19 第45期生養成講座
(講師：荒浪 聖氏)
第11回理事会
- 20 相談活動運営委員会
- 22 事務局会議
- 23 自殺予防公開講座
(講師：上野 誠氏)
(鼎談：中止)
- 26 共同募金配分申請ヒヤリング
受信資料検討班会
第11回教育委員会
- 29 自主研修「ケースと私」(中止)

【編】集【後】記【

夢や希望を胸に就職活動に励んでいた若者たちが、新たな立ちの時を迎えています。多彩な髪や服装、アクセサリで個性を表現していた彼らは、就活中は揃って黒髪と黒スーツに姿を変えていました。1970~80年代にスーツが定着し、90年代以降は白シャツと黒スーツが就活スタイルの定番になりました。個性や多様性を尊重する教育を受けてきた今の若者たちは、この現実社会をどのように感じて活動したのでしょうか。

今春、一部企業では新型コロナウイルスの感染防止のため会社説明会や面接会をWebで行いました。近年、履歴書や面接をAIで評価する企業も増えているとのこと。昨年は就活支援会社が学生の内定辞退率をAIで計算して販売していたことが発覚しました。AIには人間のバイアスやミス削減、生産性を上げるなどの効果がある一方で、AIのアルゴリズムやデータにバイアスが含まれる危険性も指摘されています。とはいえ若者の社会への第一歩がAIとの出会いから始まる時代が来ているようです。いずれ「いのちの電話」の活動も、AIと向き合うときが来るのかもしれません。

いずれにしても、さまざまな価値観を持つ人との出会いは、若者の心を大きく揺さぶり、成長させる糧となります。彼らが人との出会いを大切に、心豊かに自分らしく生き抜くことを祈ります。
(Y. T)

2019年12月~2020年2月

電話受付件数

受付件数	3,266件
延べ相談員数	983人
延べ受信時間	108,174分

発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス
<http://www.f-inochi.org/>

発行人 林 幹男
編集人 古賀 俊次



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。